おやこであそぼう

～　絵本と、わらべうたの時間　～

2017年 12月20日

☆～　今月の絵本と紙芝居　～☆

おしょうがつさん どんどこどん（世界文化社）作・絵：長野ヒデ子

おめでとう（講談社）作：広松由希子／絵：茂田井武

きょうというひ（BL出版） 作・絵：荒井良二

くまのクリスマス（小学館） 作・絵：高橋和枝

くまのこのとしこし（講談社）作・絵：高橋和枝

クリスマスのおばけ（ポプラ社） 作・絵：せなけいこ

くまちゃんのふゆまつり（ハッピーオウル社） 作・絵：ほりかわりまこ

＊クリスマスのかくれんぼ（ポプラ社） 作・絵：いしかわこうじ

さんかくサンタ（絵本館） 作・絵：ツペラツペラ

＊サンタのいちねん トナカイのいちねん（ひさかたチャイルド）作・絵：きしらまゆこ

すやんこすやんこおやすみなさい（鈴木出版）作・絵：オームラトモコ

たのしいふゆごもり（福音館書店）作：片山令子／絵：片山健

トトトのトナカイさん（偕成社） 作・絵：長谷川義史

ぼくのいろなあに（ポプラ社）作・絵：はたこうしろう

＊まどから おくりもの（偕成社） 作・絵：五味太郎

もりのふゆじたく（福音館書店）作・絵：垂石眞子

＊ゆかいなゆうびんやさんのクリスマス

（文化出版局） 作：ジャネット・アルバーグ／絵：アラン・アルバーグ

＊ゆめのゆき（偕成社） 作・絵：エリック・カール

よるのおうち～紙芝居～（教育画劇）作・絵：YUZUKO

らったったったクリスマス（学研） 作：LaZoo／絵：あらかわしずえ

♪歌

ろうそく　ぱっ　もひとつ　ぱっ
あかりを　つけたら　クリスマス

ろうそく　ふっ　もひとつ　ふっ
そらには　キラキラ　おほしさま

☆～　クリスマスの食　～☆

今では日本でも、クリスマスに家族で食卓を囲むことが当たり前のようになっていますが、クリスマスの本意は横に置かれているようです。でも、それはそれ。共働きのご家庭が多いこの頃では、家族みんなが揃ってテーブルに着くことも難しくなっています。家族が一緒に、夕食のひと時をゆっくりとお喋りしたりして過ごすことに、クリスマスが貢献できているのかもしれません。

主イエス・キリストの誕生は、聖家族の誕生でもありますから、家族を大切に思う時間を作れることは、何よりも大切で、素敵なことです。

さて、そのクリスマスの食卓のメインと言えば、みなさんは、七面鳥（ターキー）を思い浮かべられることでしょう。でもイギリスでは、鵞鳥（グース）が普通でした。ナーサリー・ライムの詩には、こんなのがあります。

クリスマスがやって来る
ガチョウが太ってきた
老人の帽子に１ペニー落としてやっておくれ

またディケンズの「クリスマス・キャロル」の中で、貧しいクラチット家の食卓を飾るのは鵞鳥なのです。１６世紀半ば頃に、新大陸からもたらされた七面鳥は、まだまだ高価で、お金持ちの食べ物だったようで、もちろん鵞鳥も決して安価ではなかったようです。

「クリスマス・キャロル」の中で、金持ちでケチだったスクルージが改心して、クラチット家にプレゼントしたのは、七面鳥でした。

クリスマスシーズンの食べ物いえば、 シュトーレン、 クリスマスプディング、 ラクレット、ユールシンカ、、ミンスパイ、ブッシュ・ド・ノエルなどなど、日本でも、すっかりお馴染みになったものも多いでしょう。そこで名前の意味は、かなりドキッとするクリスマスのパン「ダイフェカーター」というのをご紹介して、今年のプログラムの幕を閉じたいと思います。

忙しい年の瀬、寒さも増してきますので、体調を崩されることなく、お元気で豊かなクリスマスのひと時をお過ごし下さい。
佳き新しき年をお迎え下さい。

次回は　2018年 1月17日（水）

お問い合わせ
クリスト・ロア修道会
TEL０４２（４６５）８６２０